

**平成 29 年度岡山市市民協働推進モデル事業
最終評価表**

実施団体	NPO 法人アートファーム		
協働部署	文化振興課		
記入日	2018/03/05		

1. 事業の目標と結果

事業の目標	目標に対する結果	結果の自己分析
事業提案書に記載された「期待する事業成果・目標値等」または事業を通じて意識されていた目標を一枠に一項目ずつご記入ください。	「成果・目標値等」に対する結果をご記入ください。	「目標に対する結果」に至った要因や工夫されたこと、うまくいかなかったことなどをご記入ください。
(地域の課題) 新しい文化芸術施設の建設が計画されている千日前地区とその周辺地域にとって、劇場誕生を期待と共感をもって迎えられることを目指す。	平成 29 年度事業で当該地区の住民との最初の接点を設けられたことには大きな意義があった。 ・店主の WS への参加: 2 名 ・店主の WS での取材協力: 10 軒(表町: 4 軒、千日前: 2 軒、西大寺: 2 軒、新西大寺: 2 軒)	今年度事業では店主以外の地域住民に対して十分なアプローチができなかった。今後、継続して当該地区の住民に対する参加機会や情報を提供していく必要がある。
(新施設の課題) “創造型劇場”としての整備を図る新しい文化芸術施設のポテンシャルを、広く周知することを目指す。	全国的な創作現場で活躍する演出家と美術家を講師に迎えたことで「創造型劇場」として提供できるプログラムの一部を体感していただくことができた。 また、本事業は開催前後に地元新聞に取り上げられ、イベントの広報のみでなく、事業の主旨を広く読者に発信することができた。	今回は予算の制約等によりプログラムを簡略化せざるを得なかったが、講師の尽力によって高い満足度を得ることができた。今後も予算や期間の制約は発生するが、できるかぎり質の高いプログラムを提供して、より多くの市民に芸術および施設のポテンシャルを実感していただきたい。
(担い手の課題) 新しい文化芸術施設が多様な市民参加の機会を創り出してゆく場所になることを目指す。	ワークショップと成果発表を通じて本事業に関わりを持った市民はのべ 79 名となった。それぞれのアンケートからはプログラムへの感想だけでなく、新しい文化芸術施設への関わりや活用に関する意見も見られ、表現者としてだけでなく、観客やボランティアなど、様々な方法で施設	今回の参加者とは電話や電子メールなどで継続的に連絡を取ることができるが、今後の具体的な参加方法などを示すまでには至っていない。左記のとおり、新しい文化芸術施設では表現者と観客に限らない様々な参加方法が想定されるため、継続的に様々な機会・情報を提供

	を担っていく可能性をもつ高校生から 60 歳代までの市民との継続的な接点をつくることができた。 ・ワークショップ A プロ参加者:6 人 ・ワークショップ B プロ参加者:14 人 ・発表会参加者:59 人(招待客/商店主含む)	していきたい。
--	---	---------

2. 協働の基本原則に基づくチェックリスト

協働の原則	チェック(できたものに☑)	指標(※指標の番号が大きくなるほど協働が進んでいる状態を表します。)
相互理解の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を明文化した
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体と協働部署がそれぞれの役割を果たした
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 実施団体のミッションを理解していた(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 岡山市(協働部署)の方針や計画を理解していた(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 実施団体と協働部署のそれぞれの強みが発揮され、弱みが補われていた
目的共有の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署が事業のスケジュールを把握していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体と協働部署の双方の合意によって事業目標が決定されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 実施団体と協働部署が事業の成果・課題を定期的に共有していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況を共有していた
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 実施団体と協働部署が理想とする社会状況と現状とのギャップを共有していた
対等の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 双方の合意によって役割分担が図られていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 実施団体の意思・意見が尊重されていた(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 協働部署の意思・意見が尊重されていた(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 実施団体のみに役割や責任が集中していなかった(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 協働部署のみに役割や責任が集中していなかった(協働部署が回答)
自主性及び自立性尊重の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署が積極的に意思表示をしていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 事業またはその他の意思決定において実施団体に不当に干渉されなかった(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 事業またはその他の意思決定において協働部署に不当に干渉されなかった(実施団体が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 事業またはその他の意思決定において実施団体に依存されなかった(協働部署が回答)
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 事業またはその他の意思決定において協働部署に依存されなかった(実施団体が回答)

公開の原則	<input checked="" type="checkbox"/>	① 実施団体と協働部署間で事業の進捗状況や予算の執行状況が随時共有されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	② 議事録やイベントごとの報告書が作成され、実施団体と協働部署で共有されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	③ 必要に応じて実施団体と協働部署以外の第三者の助言を仰いでいた
	<input checked="" type="checkbox"/>	④ 事業の案内が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた
	<input checked="" type="checkbox"/>	⑤ 事業の結果が実施団体のウェブサイト等で随時発信されていた